

Ｉターン女子に聞く!!

市長とカフェトーク開催



カフェトークの様子

市では、定住促進のためのさまざまな取組を行っており、そのひとつに平成27年度からスタートした「出雲大好きＩターン女性支援事業」があります。

この事業は、市内に初めて移住し、市内事業所に雇用された20歳以上の独身女性に対し、引越助成金、家賃助成金を、対象者を雇用する市内事業所に就業助成金を交付するものです。今年度はこの事業を活用して、9人の方が出雲に移住しています。

昨年12月15日、この9人の女性と市長による「出雲大好き♥Ｉターン女子 市長とカフェトーク」を開催しました。当日は、出雲へ移住したきっかけや出雲での生活で感じたことなど、率直な思いを語っていただきました。

お話の中からは、この地に住むわたしたちにとっての「あたりまえ」の中の、大事にしていくべきこと、見直すべきことなどが見えてきました。

出雲に来たきっかけ

長南美穂さん

出身は東京なのですが、東京ではないところで働きたいと思い、いろいろな地域のＵＩターンフェアに行っていました。しまねＵＩターンフェアに行った際に、その時に対応していただいた方の柔らかい雰囲気が入って、この人たちと関わってみたいなと思ったのがきっかけです。移住してみても、生活にもそんなに不便さを感じることなく、出雲での生活を楽しんでいきます。

田中洋子さん

こちらに来る前から、毎月出雲大社にお参りしていました。それをきっかけに地元の方々とつながりが生まれ、その縁で出雲大社に就職が決まったので、移住を決めました。一切縁のない地域でしたが、それこそ縁が繋がっての移住となりました。

原嶋裕菜さん

就職活動をしていた際に、専門学校の

出雲弁について

金城恵奈さん

今、薬局の受付の仕事をしているのですが、特にお年寄りの方は何を言っているのか全くわかりませんでした。3回くらい聞き返してもわからなかったので、「すみません、お願いします」と言っていると、他の人に変わってもらったこともあり、出雲弁は濁点が多いように思います。

藤野愛子さん

私も全然わかりませんでした。職場の人でも、早口で出雲の人同士がしゃべっているの聞き取れないですね。ちょっと慣れたかなと思いますが、やっぱりお年寄りの方と接するときは、わからないです。